

学習の流れの例

- 平日はほとんど学校にいることから、地震発生時、学校に潜む危険は何か考える
 - 例) 理科室の薬品、調理実習中のコンロ等
- 各学校で定めている登下校の避難の方法を確認する
- 休日にはどんな危険が潜んでいるか考える
 - 例) エレベーターに閉じ込められる、遠方に遊びに行き徒歩で帰れない等

学習後の生徒の姿

主体的に学習に取り組む態度

自分の行動パターンを分析し、生活の中にどのような危険があるか自ら探し出し、それらの危険に備える心構えをもととしている

このページの

指導案 ワークシート

はコチラから!

ワークシートでは、1日の行動を円グラフで書き出すことで、視覚的にどの時間にどこにいるのかを把握する。1日の行動を振り返ったうえで、考えられる危険についてピックアップし、対策を考える。という流れで学習できるようになっている。

①

普通教室(例)

- 戸棚、本棚、ロッカー等が倒れる可能性がある
 - 蛍光灯、時計、テレビ、壁等が落下する可能性がある
 - 暖房器具の倒壊による火災発生の危険がある
- ⇒ 倒れたり、落下したりしない場所へ速やかに避難する
- ⇒ 避難のタイミングを逃した場合は、机の下にもぐったり頭部を保護する

理科室(例)

- 薬品棚が転倒し、薬品が散乱する可能性がある
 - 棚の近くに座っている生徒はただちに棚から離れる
- ⇒ アルコールランプやガスバーナーが倒れ出火する
- ⇒ 揺れがおさまってから火を消し、ガスの栓を閉める

家庭科室(例)

- 調理実習中の沸騰した湯や火で火傷する可能性がある
- ⇒ 倒れてこない場所へ速やかに避難する
- ガス漏れによる火災発生の可能性がある
 - アイロンによる火災発生の可能性もある
- ⇒ ガスの元栓を閉め、電源を抜いて火災の原因をなくす

※参照:福岡県教育委員会「教師用指導資料 防災教育 地震」

普段、避難訓練で使用しない教室や特別教室で地震が発生した時、どのような危険が潜んでいてどのように身を守れば良いのか考えておくことで、発災時、少しでも慌てずに行動できるようにする。

学校によって教室の構造や種類、設置物が異なるため、ガイドに載っていない教室等も積極的に取り入れて考えさせたい。

私たちの1日に潜む危険

地震が起きたときにいる場所・時間など、状況によって危険は異なります。そのときにあわてないよう、事前に危険箇所を把握することが大切です。

めあて 生活の中にどのような危険があるか把握し、備える心構えをもつ。 ワークシート

自分の行動パターンを分析

自分がいる場所にはどのような危険が潜んでいるのでしょうか。学校の日と休みの日、それぞれの24時間をふり返り書き出してみましょう。

学校にいるとき

<input type="checkbox"/> 普通教室	<input type="checkbox"/> 廊下
<input type="checkbox"/> 理科室	<input type="checkbox"/> 階段
<input type="checkbox"/> 被服室・調理室	<input type="checkbox"/> グラウンド
<input type="checkbox"/> 技術室	<input type="checkbox"/> プール
<input type="checkbox"/> 学校図書館	
<input type="checkbox"/> 保健室	
<input type="checkbox"/> 美術室	
<input type="checkbox"/> 音楽室	
<input type="checkbox"/> 体育館	

※ 蛍光灯の落下、窓ガラスに注意。
※ 衣箱があれば、ドア付近の人はドアを開け出口を確保。

外出中のとき

<input type="checkbox"/> ショッピングセンター・ビル
<input type="checkbox"/> 地下街
<input type="checkbox"/> バス・電車内
<input type="checkbox"/> 駅構内・ホーム
<input type="checkbox"/> ゲームセンター
<input type="checkbox"/> 遊園地
<input type="checkbox"/> 映画館
<input type="checkbox"/> 河川敷
<input type="checkbox"/> 海岸付近

※ 校舎のそばにいるときは、グラウンドの中央に移動しダンゴムシのポーズをとる。
※ サッカーゴール、バスケットゴールなどの転倒に注意。

地震発生! こんなとき、どうしたらいいの?

自宅にいるとき

学校の日? 休みの日?
自校の区や地域が震度5以上の地震でない場合でも、横浜市内のどこか一地点でも震度5強が観測されたとき登校の必要はありません。

登下校のとき

自宅と学校どちらに行ったらいいの?
まず、命を守る行動をとります。次に学校か自宅か、近いほうに避難するのが基本です。

中間地点より自宅に近いとき
● 自宅に保護者がいるとき → 自宅に引き返す
● 自宅に保護者がいないとき → 学校に行く

中間地点より学校に近いとき
→ 学校に行く

どっち

自宅 ← 中間地点 → 学校

※ 学校により地震発生時どのような行動をとつたらよくなります。学校の決まりを確認し、どうするかを家の人と話し合っておきましょう。
※ 自宅に誰もいない場合の連絡手段や落ち合う先も、話し合きましょう。

学校にいるとき

どうやって帰ればいいのか?
● 帰宅は、保護者への直接引き渡しを原則です。
● 生徒は勝手に家に戻ってはいけません。
● 保護者と連絡がとれない場合、学校で待機します。

地震発生時の学校の決まりメモ

※ 自校の決まりを書きおきましょう。

平日

起床 8:00 登校 8:30 学校

休日

起床 6:00 自由時間 8:30

昼食

12:00

下校・部活動など

15:00

自宅

20:00

就寝

22:00

自宅にいるとき

<input type="checkbox"/> 居間	<input type="checkbox"/> 冷蔵庫・エアコン(家電)
<input type="checkbox"/> 台所	<input type="checkbox"/> タンス・棚(家具)
<input type="checkbox"/> 寝室	<input type="checkbox"/> 照明器具
<input type="checkbox"/> トイレ	<input type="checkbox"/> ストープ
<input type="checkbox"/> 風呂場	<input type="checkbox"/> 窓ガラス
<input type="checkbox"/> 階段	
<input type="checkbox"/> ベランダ	
<input type="checkbox"/> 庭	
<input type="checkbox"/> 車庫	

10

登下校のとき

<input type="checkbox"/> ブロック塀	<input type="checkbox"/> マンホール
<input type="checkbox"/> 看板・ガラス	<input type="checkbox"/> 自動販売機
<input type="checkbox"/> 電柱・街灯	<input type="checkbox"/> 電線(感電)
<input type="checkbox"/> 踏切	
<input type="checkbox"/> 橋・歩道橋	
<input type="checkbox"/> エレベーター	
<input type="checkbox"/> 海辺・河辺	
<input type="checkbox"/> 山・がけ	
<input type="checkbox"/> 自動車	

11

①横浜市学校防災計画にも「学校の対応(休校措置、登下校時の対応、児童生徒の引き渡し、連絡方法)について、教職員間で共通認識するだけでなく、保護者に対して、機会あるごとに周知し、徹底を図ること。また、必要な事項については、児童生徒に対して防災教育の一環として教えること。」と明記されている。

※引用:横浜市教育委員会

「横浜市学校防災計画-令和5年4月改訂版-」

第2部 震災対策編第1章 日常における学校防災対策

第1節 日常における学校防災体制の充実

1 学校における防災体制

(2)地震が発生した際の基本的な対応についての周知徹底

学校内で行う避難訓練も大切だが登下校時の避難の方法やその判断についての情報を確認しておくことも大切である。

このページでは、災害安全に関する授業だけで考えるのではなく、避難訓練を通じて平日頃から「今地震が起きたらどんな危険があるだろうか」「避難経路はどうしたらいいのだろうか」等、どのように身を守る行動をするべきか考える習慣をつけさせたい。

文字の色について

赤文字: 単語の意味の説明

青文字: 生徒への支援の視点や発展的な内容